

「世界が一つになるまで」

七月七日、たなぼたの日は小学校四年生の孫の峻の小学校の創立記念日だ。少し早い四日の午後創立記念全校音楽祭があった。むすめが仕事でゆけないとき私たちが親代わりに学校行事に参加する。

この日もそうだった。妻の運転手をかねている私もお供した。体育館の中央にステージができその周りを一年生から六年生までが囲み、そのまた周りで親たちが聴いている。少子化社会になった今、子どもたちは総勢で三百人そこそこ、親もいれて五百人と体育館は手ごろな会場だ。妻が娘の在学していた三〇年前頃は体育館はいつもあふれんばかりであったという。

子どもたちの司会で進行が図られて行く。各学年ごとにもステージに登壇して、練習を重ねた曲を声を合わせて披露した。校長先生の紋切り型の御あいさつはなかった。校長先生が「私が出てはせっかくの子どものための思いが伝わらない」といわれたことを後で聞いた。「すてきな校長先生」と妻と感心した。

音楽祭の共通テーマは「世界が一つになるまで」
一年生は「きらきらぼし」「小さな世界」を歌った。

「小さな世界」の歌を御存じだろうか。デズニールランドの「イッアスモールワールド」館のテーマ曲というと思い出される方がいるかもしれない。「世界中どこだって笑いあり涙あり……」で始まる曲だ。

うまいへたでない。ちいさな子どもたちの精一杯の歌声はそれだけで心が洗われる。この子たちに平和な世界を渡したいと心から思った。六年生は「世界に一つだけの花」を歌った。指導者が音楽専科の先生らしく子どもたちがのびのびと大きな声で「ナンバーワンでなくオンリーワンの花を咲かせよう」と歌った。

最後の全員合唱曲「世界が一つになるまで」はNHKアニメ「忍たま乱太郎」のテーマソングだ。

まぶしい日差しが 君の名を呼ぶ
同じ気持ちで 空がみえるよ

つらい時一人きりにならないで 涙をこらえないで
世界が一つになるまで ずっと手をつないでいよう
あたたかい微笑みで もうすぐ夢が本当になるから

歌の多くが手話つきの歌だった。言葉がなくとも思いを伝え合うことを体で学んでいた。「どうだった」と帰宅した孫の問いに私たちは「本当に良かった。すてきな歌をありがとう」とこたえた。

(ほ)